

## 1 目標指標とは（四万十川条例第36条）

目標指標：条例の目的の**達成状況を把握し、進行管理を行うための指標**（現状数値、目標数値、目標年度及び調査方法）

- 四万十川の将来像
- ①水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること
  - ②天然の水生动植物が豊富に生息し、生育していること
  - ③河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されていること
  - ④人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されていること
  - ⑤季節ごとの優れた景観を有していること
  - ⑥住民の安全かつ快適な生活が保たれていること
  - ⑦川がこどもの遊びの場として活用されていること
  - ⑧川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること
  - ⑨流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと
  - ⑩情報通信網が整備され、その活用が図られていること

具体化、調査方法、調査年度、目標数値を規定

### 目標指標（54項目）

清掃・農林業・地産・  
伝統行事など

住民主体の取組

協働

行政主体の取組

公共工事・森林整備・排  
水対策など

【目標指標年度】

平成19年度目標値

平成24年度目標値

平成29年度目標値

（次期目標値）

平成34年度目標値

## 2 平成34年度目標指標（案）の提案について

### ○意見照会結果など

- ・公共事業における土砂の移動等の実態を把握する指標を追加してはどうか。
- ・目標値が過大となっている項目は、現実的な値に変更してはどうか（流域を支援する制度の会員など）
- ・旧中村市だけでなく集計可能な範囲で流域全体にしてはどうか。（交流人口の状況）
- ・環境保全型農業が営まれていること把握できる指標に置き換えてはどうか。（農薬・化学肥料の使用量の低減）
- ・生業の定義を見直すなど調査方法や項目を再検討してはどうか。（川漁師の人数）

### ○検討にあたっての考慮事項

- ・四万十川条例の将来像に沿った指標であること
- ・継続してデータ収集ができること（事業廃止や今後実施の見込みがない事業の反映）
- ・公開可能なデータであること
- ・目標値の設定について、他の計画と整合が取れること

資料 3  
平成34年度目標指  
標（案）改正一覧

関係機関（国、県庁内、流域市町）と協議のうえ、次回の保全振興委員会に結果を報告

平成34年度目標指標（案）改正一覧

資料3

平成29年度目標指標 54項目

1 生態系及び景観の保全【16項目】

(1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること。【8項目】

改正前				
項目(番号・項目)			改正前	
1	住民	清流基準の達成度	清流度の平均値(単年値)	H29年度目標値: 7.1m
			水生生物の平均値(単年値)	H29年度目標値: 1.3
2	行政	清流基準の達成度	窒素の平均値(単年値)	H29年度目標値: 0.35mg/L
			りんの平均値(単年値)	H29年度目標値: 0.015mg/L
3	住民 行政	生活排水の浄化率 (污水处理人口普及率)	H29年度目標値: 68.36%	
4	住民	四万十川一斉清掃の参加率	算出方法: 参加世帯人数/流域世帯人数 H29年度目標値: 14.3%	
5	住民	水切り袋の普及率	H29年度目標値: 86.1%	
6	行政	環境に配慮した砂防・治山ダム数(累計値)		
7	行政	流域での学識者、有識者の活用件数(単年値)		

(注)「生活排水の浄化率」は、住民・行政の項目であるため、2項目として集計

(2) 森林、農地及び草草が適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること。【8項目】

改正前				
項目(番号・項目)			改正前	
1	住民	森林認証の認証状況	認証団体数(累計値)	H29年度目標値: 5団体
			認証面積(累計値)	H29年度目標値: 19,345ha
2	住民	環境保全型農業の実施状況		
3	住民	リサイクル肥料の年間生産状況(単年値)	H29年度目標値: 10,487t	
4	住民	耕作放棄地の面積		
5	住民	農業・化学肥料の使用量の低減	数値把握ができないため項目のみ挙げている。	
6	行政	除・間伐の面積		
7	行政	混交林の面積		
8	行政	環境先進企業との協働の森づくり事業における協定件数	集計対象: 協働の森づくり事業 H29年度目標値: なし	

平成34年度目標指標（案） 52項目

1 生態系及び景観の保全【18項目】

(1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること。【10項目】

【番号】	改正後				資料4 ページ番号	
	項目(番号・項目)			改正検討内容		
【1】	1	住民	清流基準の達成度	清流度の平均値(単年値)	H34年度目標値: 7.1m	1
				水生生物の平均値(単年値)	H34年度目標値: 1.3	2
【2】	2	行政	清流基準の達成度	窒素の平均値(単年値)	H34年度目標値: 0.35mg/L	3
				りんの平均値(単年値)	H34年度目標値: 0.015mg/L	4
【3】	3	住民 行政	生活排水の浄化率 (污水处理人口普及率)	H34年度目標値: 77.24%		5
【4】	4	住民	四万十川一斉清掃の参加率	算出方法: 「参加者数/流域人口」に統一 H34年度目標値: 9.0%		6
【5】	5	住民	水切り袋の普及率	H34年度目標値: 86.1%		8
【6】	6	行政	環境に配慮した砂防・治山ダム数(累計値)			9
【7】	-	行政	流域での学識者、有識者の活用件数(単年値)	項目の廃止		10
【8】	7	行政	四万十川(具同)における流況	新規項目として追加 目標値を設定しない		11
【9】	8	行政	四万十川における河床高の状況	新規項目として追加 目標値を設定しない		12
【10】	9	行政	魚類・底生動物の確認種数	新規項目として追加 目標値を設定しない		13

(注)「生活排水の浄化率」は、住民・行政の項目であるため、2項目として集計

(2) 森林、農地及び草草が適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること。【8項目】

番号	改正後				資料4 関連ページ	
	項目(番号・項目)			改正検討内容		
【11】	1	住民	森林認証の認証状況	認証団体数(累計値)	目標値を設定しない	14
				認証面積(累計値)	目標値を設定しない	15
【12】	2	住民	環境保全型農業の実施状況			16
【13】	3	住民	リサイクル肥料の年間生産状況(単年値)	H34年度目標値: 環境農業推進課と協議のうえ決定		17
【14】	4	住民	耕作放棄地の面積			18
【15】	5	住民	農業低減に取り組んでいる栽培面積	エコファーマー等の栽培面積		19
【16】	6	行政	除・間伐の面積			21
【17】	7	行政	混交林の面積			22
【18】	8	行政	環境先進企業との官民 協働の環境保全	協働の森づくり事業における協定件数	H34年度目標値: なし	23
				協働の川づくり事業等における協定件数	H34年度目標値: 2件	

2 生活・文化・歴史の豊かさの確保【38項目】

(1) 住民の安全かつ快適な生活が保たれていること。【6項目】

改正前			
項目(番号・項目)		改正前	
1	住民	NPO法人の活動団体数(累計値)	
2	住民	インターネットの普及率	H29年度目標値: 45.0%
		携帯電話の普及率 (スマートフォン含む)	H29年度目標値: 88.5%
3	住民	生活満足度	
4	行政	住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	道路改良率(累計値) 交通事故発生件数(単年値) 集計対象: 交通事故の年間発生件数
		地元中高卒者の地元就職率	
6	行政	子どもの人数(単年値)	

(2) 四万十川がこどもの遊び場として活用されていること。【7項目】

改正前			
項目(番号・項目)		改正前	
1	住民	川で遊んだこどもの割合	
2	住民	カヌーを体験したこどもの割合	調査対象: カヌーを体験したこどもの割合
3	住民	川で魚やエビなどを捕ったことのあるこどもの割合	
4	行政	こどもが自由に魚を釣れる場所数	
5	行政	水生生物調査実施校の割合	
6	行政	水質調査実施校の割合	
7	行政	自然体験型修学旅行の実施校数(単年値)	H29年度目標値: 30校

2 生活・文化・歴史の豊かさの確保【34項目】

(1) 住民の安全かつ快適な生活が保たれていること。【5項目】

番号	改正後			改正検討内容	資料4 関連ページ
	項目(番号・項目)				
[19]	住民	NPO法人の活動団体数(累計値)		【37】環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数に統合	24
[20]	1	住民	情報通信網の普及率	インターネットの普及率 携帯電話の普及率 (スマートフォン含む) <b>整備率などへの変更を検討</b> <b>H34目標値: 流城市町と協議し決定</b>	25 26
[21]	2	住民	生活満足度		27
[22]	3	行政	住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	道路改良率(累計値) 水難事故の発生件数 集計対象: <b>水難事故</b> の年間発生件数 <b>H34年度目標値: 0件</b>	28 29
[23]	4	行政	地元中高卒者の地元就職率		30
[24]	5	行政	子どもの人数(単年値)		31

(2) 四万十川がこどもの遊び場として活用されていること。【7項目】

番号	改正後			改正検討内容	資料4 関連ページ
	項目(番号・項目)				
[25]	1	住民	川で遊んだこどもの割合		32
[26]	2	住民	カヌー等を体験したこどもの割合	調査対象: カヌーを含めた「川をフィールドとした体験プログラムを受講した流域のこどもの割合」に変更	33
[27]	3	住民	川で魚やエビなどを捕ったことのあるこどもの割合		34
[28]	4	行政	こどもが自由に魚を釣れる場所数		35
[29]	5	行政	水生生物調査実施校の割合		36
[30]	6	行政	水質調査実施校の割合		37
[31]	7	行政	自然体験型修学旅行の実施校数(単年値)	H34年度目標値: 30校	38

(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること。【5項目】

改正前			
項目(番号・項目)			改正前
1	住民	農家民宿の軒数(単年値)	
2	住民	四万十ブランド認証の認証件数	H29年度目標値: 20件
3	住民	地産の状況(単年値)	農協直売販売所等における地元農産物の販売額
			入漁券(日釣券)の販売額
4	行政	漁獲量(単年値)	アユの漁獲量
			ウナギの漁獲量
			エビ類の漁獲量
			アオノリの漁獲量
5	行政	公共事業における木材の利用状況(単年値)	H29年度目標値: 50%

(4) 地域間交流が活発に行われていること。

また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと。【6項目】

改正前				
項目(番号・項目)			改正前	
1	住民	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数(累計値)		
2	住民	グリーンツーリズムの交流人口(単年値)	集計対象: 自然体験施設(カヌー等)、四万十川すみずみツーリズム連絡会会員施設における宿泊等の人数 H29年度目標値: 33,000人	
3	住民	流域を支援する制度の会員数(累計値)	H29年度目標値: 1,988人	
4	行政	環境活動リーダー・インタープリター等の人数	集計対象: 環境活動関係のリーダー育成養成講座の参加者数、四万十リバーマスター登録者数 H29年度目標値: 104人	
5	行政	交流人口の状況(単年値)	四万十市における入込客	集計対象: 四万十市
			四万十市における宿泊客数	集計対象: 四万十市
			高速道路(須崎東IC)の1日当たり利用台数	集計対象: 高速道路(須崎東IC)の1日当たりの利用台数
6	行政	流域の人口(単年値)		

(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること。【5項目】

番号	改正後			資料4 関連ページ		
	項目(番号・項目)		改正検討内容			
[32]	1	住民	農家民宿の軒数(単年値)	39		
[33]	2	住民	四万十ブランド認証の認証件数	目標値を設定しない 40		
[34]	3	住民	地産の状況(単年値)	農協直売販売所等における地元農産物の販売額	41	
				入漁券(日釣券)の販売額	目標値を設定しない 42	
[35]	4	行政	漁獲量(単年値)	アユの漁獲量	43	
				ウナギの漁獲量		44
				エビ類の漁獲量		
				アオノリの漁獲量		
[36]	5	行政	公共事業における木材の利用状況(単年値)	H34年度目標値: 県有施設 木造木質化各100% 市町施設 協議し決定 45		

(4) 地域間交流が活発に行われていること。

また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと。【5項目】

番号	改正後			資料4 関連ページ	
	項目(番号・項目)		改正検討内容		
[37]	1	住民	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数(累計値)	【19】「NPO法人の活動団体数」を統合 46	
[38]	2	住民	グリーンツーリズムの交流人口(単年値)	集計対象: 「四万十川すみずみツーリズム連絡会 会員施設における宿泊等の人数」 自然体験施設の利用者数は、【41】「交流人口の状況」に統合 H34年度目標値: 設定しない 47	
[39]		住民	流域を支援する制度の会員数(累計値)	項目の廃止 48	
[40]	3	行政	環境活動リーダー・インタープリター等の人数	集計対象: 四万十リバーマスター登録者数、生物多様性こうち戦略推進リーダー H34年度目標値: 設定しない 49	
[41]	4	行政	交流人口の状況(単年値)	四万十川(自然、景観、文化)を活用したイベント等の入込客	(例) 四万十川ウルトラマラソン、アユ祭り、新米フェスタ等 集計対象: 四万十川流域 50
				流域の自然等を生かした観光(学習)施設等の利用者数	(例) キャンプ場、バンガロー、カヌー等体験施設、学習施設等 集計対象: 四万十川流域 51
				流域の道の駅等の利用者数	集計対象: 流域の道の駅、サンリバー四万十 52
[42]	5	行政	流域の人口(単年値)	53	
[42]	5	行政	流域の人口(単年値)	54	

(5) 文化・歴史を保全活用していること。【8項目】

改正前				
項目(番号・項目)				改正前
1	住民	伝統祭事の実施状況	祭事の実施数(累計値)	H29年度目標値: 66件
			入込客数(単年値)	流域で開催される各種イベント等の入込客数を集計。
2	住民	伝統漁法の実施状況	伝統漁法の許可件数(単年値)	
			舟大工の人数(単年値)	
			川漁師の人数(単年度)	集計対象 流域漁協が把握している「*専業川漁師」の人数 *年金受給者除く
3	住民	博物館・資料館の入場者数(単年値)		H29年度目標値: 9,528人
4	住民	シンボリック伝統家屋等		H29年度目標値: 16箇所
5	行政	適正に管理保存された沈下橋数		H29年度目標値: 47橋
6	行政	伝統漁法の保存・継承状況		H29年度目標値: 200点
7	行政	有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数		
8	行政	重要文化的景観選定地区における重要構成要素		

(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること。【6項目】

改正前				
項目(番号・項目)				改正前
1	住民	エコカー(低公害車)の保有台数(単年値)		集計対象: エコカー(低公害車)の保有台数
2	住民	ゴミの排出状況(単年値)	流域住民1人当たりの1日のゴミの量	H29年度目標値: 843g
			ゴミのリサイクル率	H29年度目標値: 45.9%
3	住民	コンポスト容器等の普及率(単年値)		
4	住民	レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取り組み		
5	行政	新エネルギー発電の施設数(累計値)		
6	行政	こどもエコクラブの登録数		

(5) 文化・歴史を保全活用していること。【8項目】

番号	改正後				資料4 関連ページ	
	項目(番号・項目)			改正検討内容		
[43]	1	住民	伝統祭事の実施状況	祭事の実施数(累計値)	H34年度目標値: 66件	55
				入込客数(単年値)	[41]「交流人口の状況」に項目を統合	56
[44]	2	住民	伝統漁法の実施状況	伝統漁法の許可件数(単年値)		57
				舟大工の人数(単年値)		58
				川漁師の人数(単年度)	集計対象 流域漁協が把握している*「川漁で収入を得ている」 *年金受給者含む	59
[45]	3	住民	博物館・資料館の入場者数(単年値)		<b>H34年度目標値: 施設管理者で設定している場合のみ</b>	60
[46]	4	住民	シンボリック伝統家屋等		H34年度目標値: 16箇所	61
[47]	5	行政	適正に管理保存された沈下橋数		<b>H34年度目標値: 48橋(現状保存)</b>	62
[48]	6	行政	伝統漁法の保存・継承状況		<b>H34年度目標値: 192点(現状保存)</b>	63
[49]	7	行政	有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数			64
[50]	8	行政	重要文化的景観選定地区における重要構成要素			65

(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること。【4項目】

番号	改正後				資料4 関連ページ	
	項目(番号・項目)			改正検討内容		
[51]	1	住民	エコカー(低公害車)の保有台数(単年値)		集計対象: エコカー(低公害車)の保有率	66
[52]	2	住民	ゴミの排出状況(単年値)	流域住民1人当たりの1日のゴミの量	H34年度目標値: 843g	67
				ゴミのリサイクル率	H34年度目標値: 45.9%	68
[53]	3	住民	コンポスト容器等の普及率(単年値)			69
[54]	4	住民	レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取り組み			70
[55]		行政	新エネルギー発電の施設数(累計値)		項目の廃止	71
[56]		行政	こどもエコクラブの登録数		項目の廃止	72

# 平成 34 年度目標指標（案）検討資料

高知県林業振興・環境部 環境共生課

## 目次

1	生態系及び景観の保全	1
(1)	四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること	1
①	清流基準（清流度・水生生物）の達成度	1
②	清流基準（窒素・りん）の達成度	3
③	汚水処理人口普及率	5
④	四万十川一斉清掃の参加率	6
⑤	水切り袋の普及率	8
⑥	環境に配慮した砂防・治山ダム数	9
⑦	流域での学識者、有識者の活用件数	10
⑧	四万十川（具同）における流況	11
⑨	四万十川における河床高の状況	12
⑩	魚類・底生動物の確認種数	13
(2)	森林、農地及び草地在適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること	14
①	森林認証の認証状況	14
②	環境保全型農業の実施状況	16
③	リサイクル肥料の年間生産状況（単年値）	17
④	耕作放棄地の面積	18
⑤	農薬・化学肥料の使用量の低減（項目のみ挙げる）	19
⑥	除・間伐の面積	21
⑦	混交林の面積（単年値）	22
⑧	環境先進企業との協働の森づくり事業における協定件数（累計）	23
2	生活・文化・歴史の豊かさの確保	24
(1)	住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	24
①	NPO法人の活動団体数	24
②	情報通信網の普及率	25
③	生活満足度	27
④	住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	28
⑤	地元中高卒者の地元就職率	30
⑥	子どもの人数	31
(2)	四万十川が子どもの遊び場として活用されていること	32
①	川で遊んだ子どもの割合	32
②	カヌーを体験した子どもの割合	33
③	川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合	34
④	子どもが自由に魚を釣れる場所数	35
⑤	水生生物調査実施校の割合	36
⑥	水質調査実施校の割合	37
⑦	自然体験型修学旅行の実施校数	38



(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること.....	39
①農家民宿の軒数（単年値）.....	39
②四万十ブランド認証の認証件数.....	40
③地産の状況.....	41
④漁獲量.....	43
⑤公共事業における木材の利用状況.....	45
(4) 地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと.....	46
①環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数（累計値）.....	46
②グリーンツーリズムの交流人口.....	47
③流域を支援する制度の会員数.....	48
④環境活動リーダー・インタープリター等の人数.....	49
⑤交流人口の状況.....	50
⑥流域の人口.....	54
(5) 文化・歴史を保全活用していること.....	55
①伝統祭事の実施状況.....	55
②伝統漁法の実施状況.....	57
③博物館・資料館の入場者数.....	60
④シンボリック伝統家屋等.....	61
⑤適正に管理保存された沈下橋数.....	62
⑥伝統漁法の保存・継承状況.....	63
⑦有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数.....	64
⑧重要文化的景観選定地区における重要構成要素.....	65
(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること.....	66
①エコカー（低公害車）の保有台数.....	66
②ゴミの排出状況.....	67
③生ゴミのたい肥化への取組状況（コンポスト容器等の普及率）.....	69
④レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取り組み.....	70
⑤新エネルギー発電の施設数.....	71
⑥子どもエコクラブの登録数.....	72



## 1 生態系及び景観の保全

本来、自然が持つ機能を十分に生かしながら、多様な生物や景観を重視した四万十川の保全を図る。

### (1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること

#### ①清流基準（清流度・水生生物）の達成度

##### 【清流度】

##### 項目内容

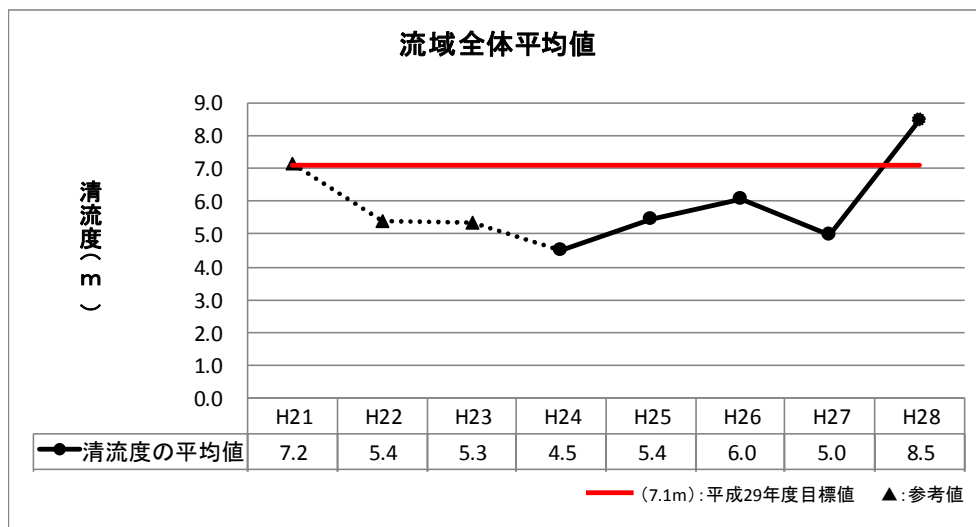
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（清流度）の達成度を把握する。数値が大きいほど川の透明度が高いことを示す。

##### 調査方法

四万十高校、窪川高校、中村高校西土佐分校、十川中学校、西土佐小学校、住民組織「しまんと黒尊むら」が調査に参加。また、高知県環境研究センターが補足調査する。清流度は年4回（春、夏、秋、冬）測定し、測定値の平均値を年度実績値として計上する。現在は、高知県環境研究センターが調査を実施。

##### 分析・考察

平成24年度以降の5カ年では平成28年度のみ目標値を上回ったが、他の4カ年では目標値を達成できなかった。平成28年度は四万十川本流の5地点に加え、支流目黒川、黒尊川でも例年に比べ高い値となっており、流域全体で透明度が高かったことがうかがえる。



※各観測地点の推移グラフは参考資料2に記載

##### 項目の見直しについて

特になし。

##### 平成34年度目標値（案）

清流基準の策定時に3年間のモニタリング調査結果より、1.0m上を目標として基準値を設定していることから目標値は変更しない。

## 【水生生物】

### 項目内容

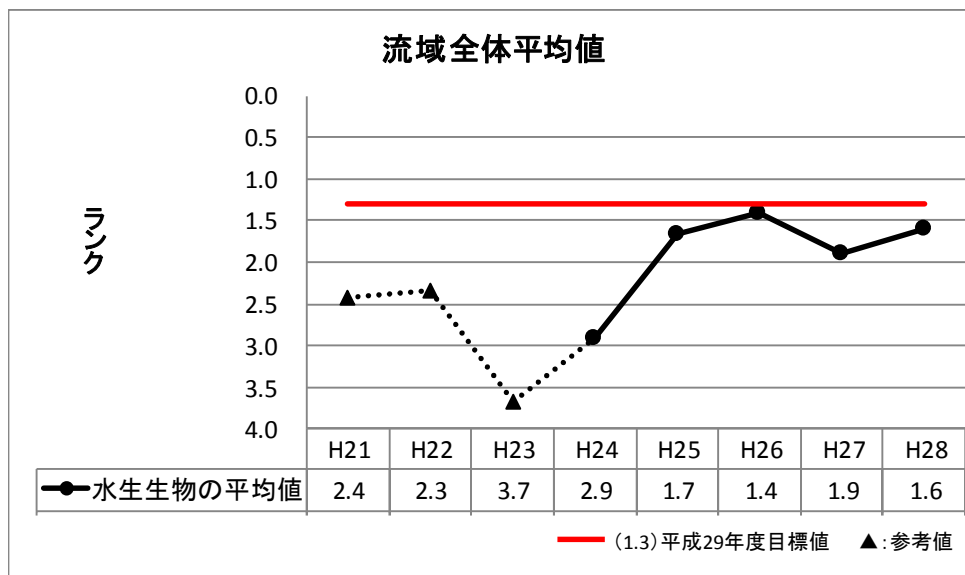
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（水生生物）の達成度。数値が小さいほど清流度が高いことを示す。

### 調査方法

四万十高校、窪川高校、中村高校西土佐分校、十川中学校、西土佐小学校、住民組織「しまんと黒尊むら」が調査に参加。また、高知県環境研究センターが補足調査する。清流度は年4回（春、夏、秋、冬）測定し、測定値の平均値を年度実績値として計上する。現在は、高知県環境研究センターが調査を実施。

### 分析・考察

流域全体の平均値は目標値に達していないものの、平成23年度の流域平均値3.7を底に、平成24年度以降は概ね全地点で改善傾向にある。



※各観測地点の推移グラフは参考資料2に記載

### 項目の見直しについて

特になし。

### 平成34年度目標値（案）

清流基準の策定時にランクが1の場合はランク1を、これ以外の場合は現状よりも1ランク上を目標として基準値を設定していることから目標値は変更しない。

## ②清流基準（窒素・りん）の達成度

### 【窒素】

#### 項目内容

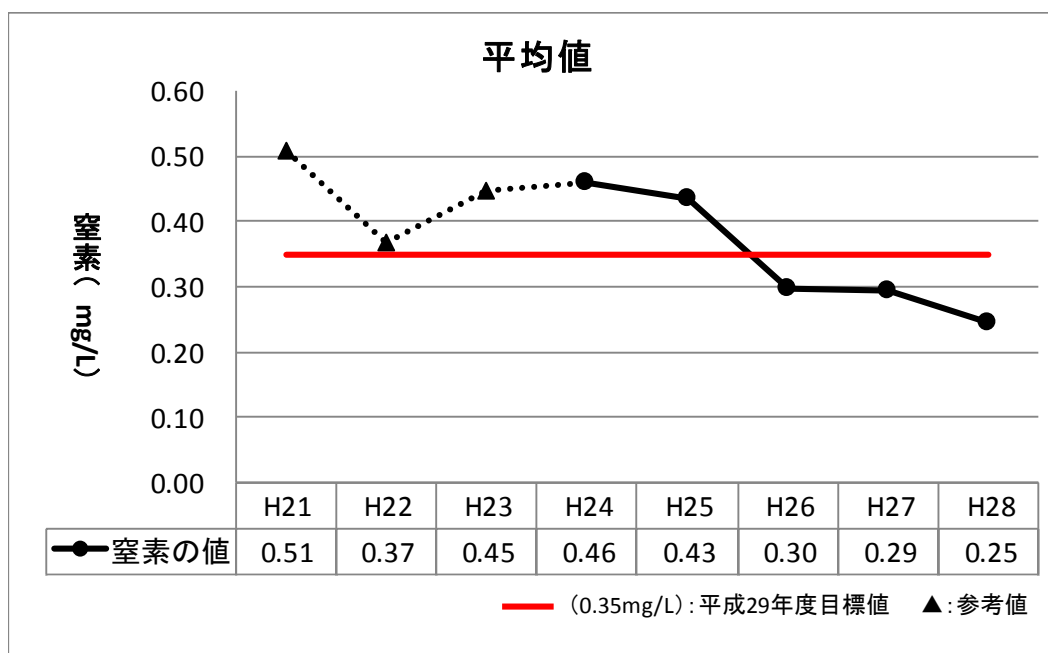
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（窒素）の達成度（目標値を下回ること達成）

#### 調査方法

高知県環境研究センターが調査

#### 分析・考察

流域全体平均値では、平成24年以降改善傾向にあり、平成26年度以降は目標値を達成し、その後も窒素濃度は経年的に低下している。



※各観測地点の推移グラフは参考資料2に記載

#### 項目の見直しについて

特になし。

#### 平成34年度目標値（案）

清流基準の策定時に人為的汚染が少ないと考えられる地点は0.3mg/L、これ以外の地点は、現状よりも0.1mg/L低い値を目標として基準値を設定していることから目標値は変更しない。

## 【りん】

### 項目内容

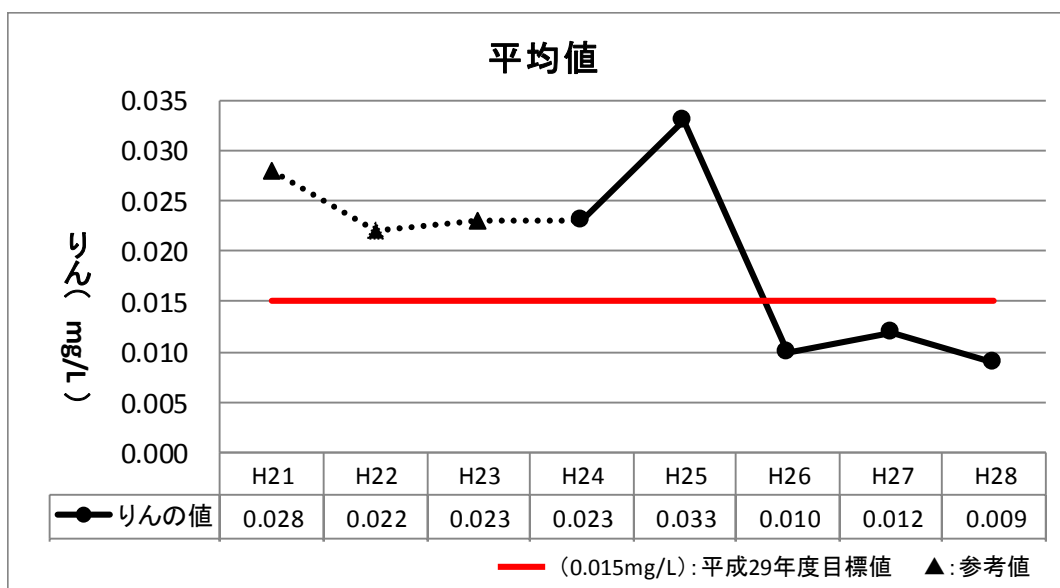
調査地点（本川 5 か所、支川 5 か所）における四万十川条例第 23 条の清流基準（りん）の達成度（目標値を下回ること達成）

### 調査方法

高知県環境研究センターが調査

### 分析・考察

流域全体平均値では、平成 25 年度以前は目標値を達成しておらず、特に平成 25 年度の値が高かったが、平成 26 年度以降は目標値を達成している。



※各観測地点の推移グラフは参考資料 2 に記載

### 項目の見直しについて

特になし。

### 平成 34 年度目標値 (案)

清流基準の策定時に人為的汚染が少ないと考えられる地点は 0.01mg/L、これ以外の地点は、現状よりも 0.01mg/L 低い値を目標として基準値を設定していることから目標値は変更しない。

### ③汚水処理人口普及率

#### 項目内容

四万十川流域5市町の下水道・集落排水施設・合併浄化槽等の処理区域内人口を行政区域内人口で割った値

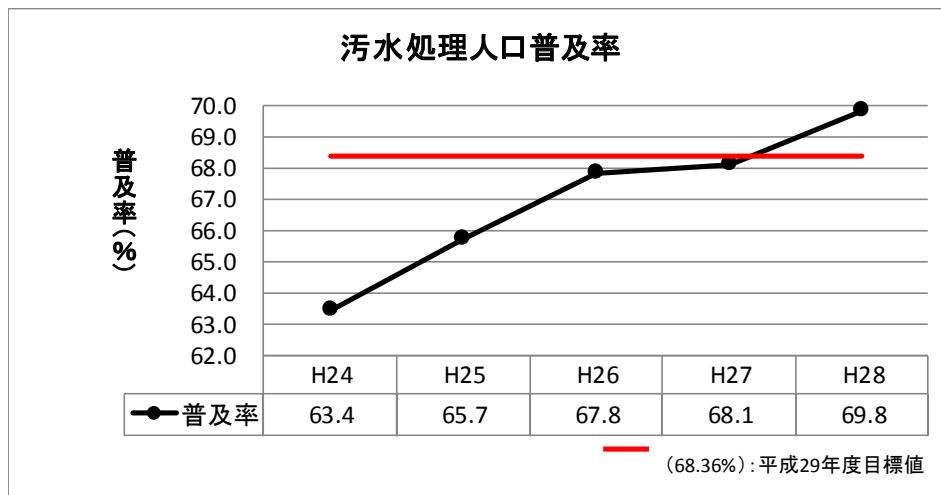
※人口減少、高齢化、市町村合併など社会情勢の変化をふまえ、平成21年度の高知県全域生活排水処理構想の見直しに伴い、浄化槽処理人口・下水道処理人口・農業集落排水整備人口を合わせた汚水処理人口普及率を目標指標として定めた。

#### 調査方法

公園下水道課ホームページ掲載の情報を参照

#### 分析・考察

平成23年度以前は汚水処理計画人口を分母とし、施設整備された実績値（人口）との割合で表していたが、高知県の「全域生活排水処理構想」の見直しに伴い、変更した。汚水処理人口普及率は平成24年度以降増加傾向にあり、平成28年度には目標値63.36%に対し69.8%と1.44ポイント目標値を上回った。



#### 項目の見直しについて

特になし。

#### 平成34年度目標値（案）

平成34年度の目標値は、「平成24年度 高知県全域生活排水処理構想2011」に定められた流域市町の平成32年度目標値(74.6%)と平成37年度目標値(81.2%)より、以下のように算定する。

算定式 =  $(81.2\% - 74.6\%) \div 5 = 1.32\%$  (1年間で達成すべき増加率)

$74.6\%$  (H32年度目標値) +  $2.64\%$  (増加率2年分) =  $77.24\%$  (H34年度目標値)

#### ④四万十川一斉清掃の参加率

##### 項目内容

参加世帯数(人)を全世帯数(人口)で割った値

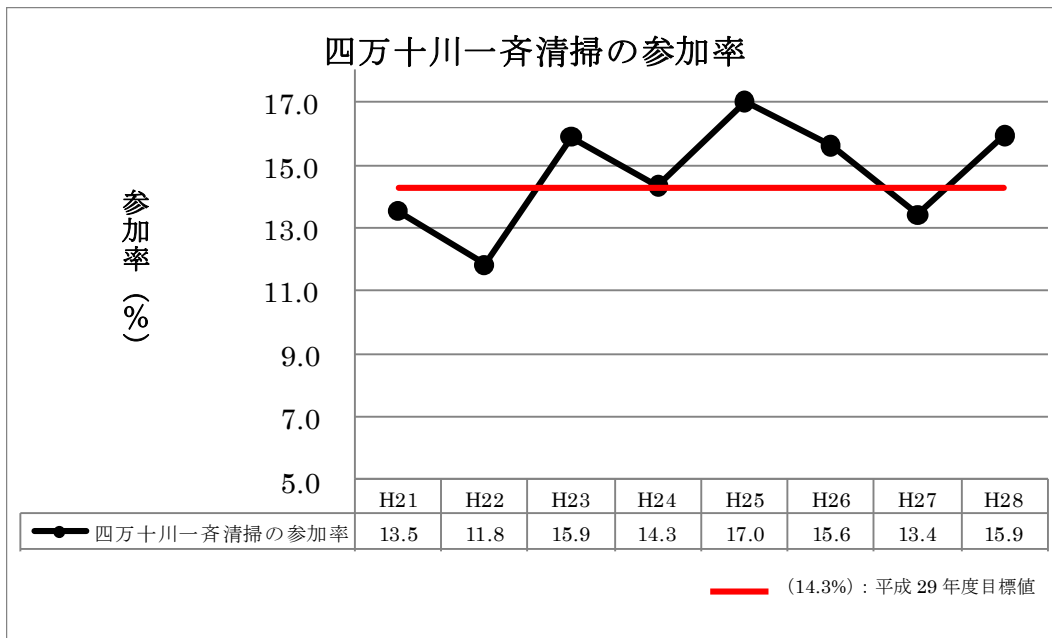
##### 調査方法

各市町村からの報告及び推計人口を使用

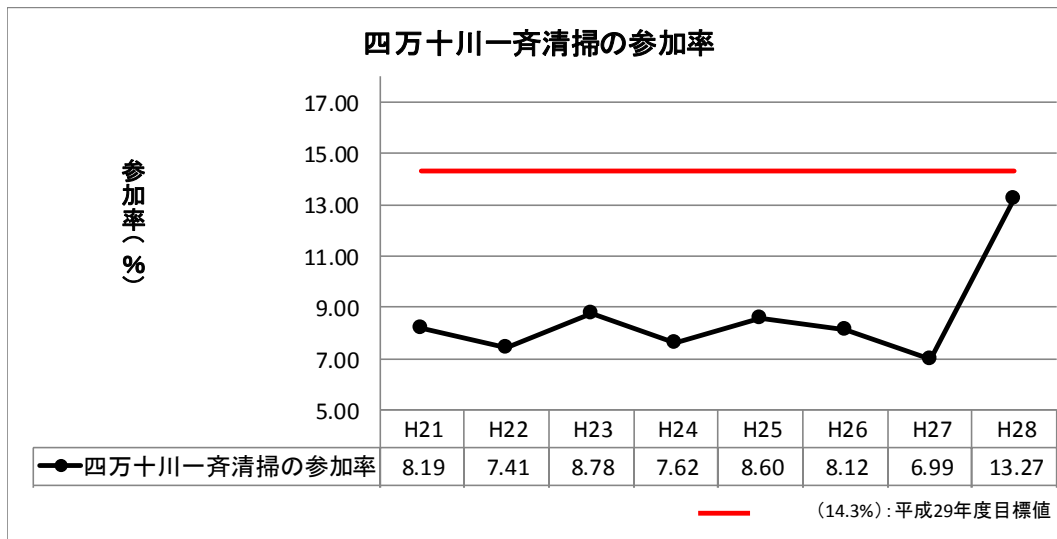
##### 分析・考察

四万十川一斉清掃の参加率は年によって上下動を繰り返すものの、平成 23 年度以降については、低迷していた平成 22 年度以前に比べて増加傾向にあり、平成 27 年度に目標を下回ったほかは目標を達成した。

平成 28 年度は、旧中村市で悪天候により中止となっており、母数から旧中村市の世帯数が除かれたため値が高くなっている。



(参考)



参考図は、参加世帯数と全世帯数の比率ではなく、参加者の合計を流域人口に対する比率で示したもの。これで見ると、平成 21 年以降、目標参加率 14.3%を達成していない。平成 28 年度の値が上昇している要因は、前述のとおり旧中村市で悪天候により中止となり、母数から旧中村市の人口が除かれたためである。

### 項目の見直しについて

集計方法を「参加世帯数/流域世帯数」から、より正確な参加率が集計できる「参加者数/流域人口」に統一する。

地区によっては、世帯から 1 名の参加で参加世帯数として世帯全員の人数を集計していたが、可能な範囲で実参加人数での集計に統一する。

### 平成 34 年度目標値（案）

平成 21 年度から平成 27 年度までの間に最も値の高かった“8.78%”を基準とし、“9.0%”を H34 年度の目標値とする。



## ⑤水切り袋の普及率

### 項目内容

水切り袋の普及率について、住民意識調査（四万十川条例第 37 条）を実施。

### 調査方法

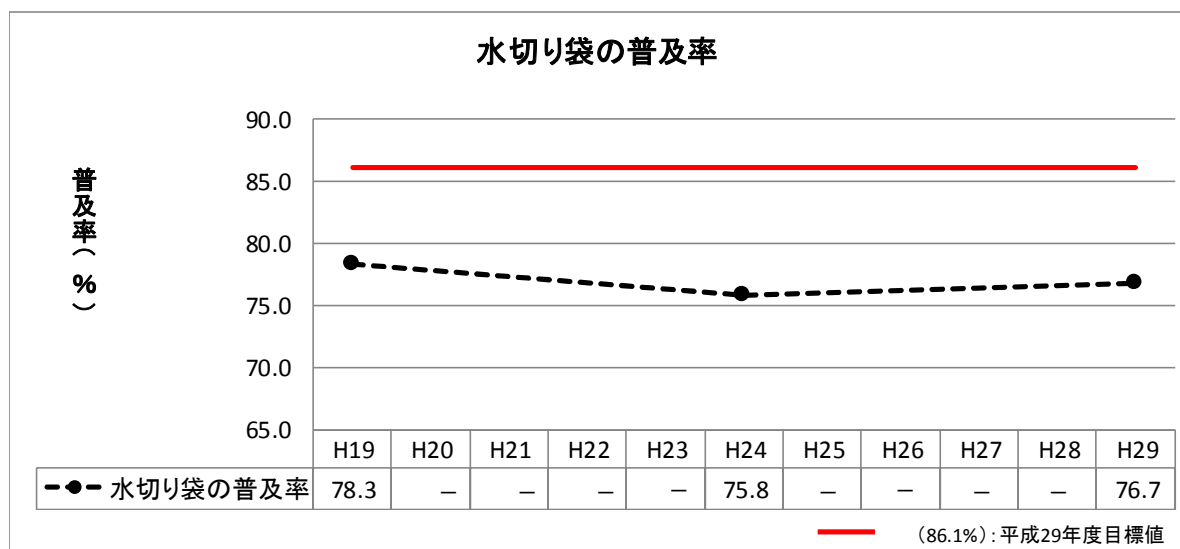
平成 16 年度、平成 19 年度、平成 24 年度、平成 29 年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）。

### 分析・考察

水切り袋の普及率は平成 19 年度から平成 24 年度にかけて 2.5 ポイント低下しており、平成 24 年度から平成 29 年度にかけては 0.9 ポイントの上昇にとどまっている。

目標値 86.1%に対し、平成 29 年度は 76.7%と 9.4 ポイント下回り、目標を達成できなかった。

平成 24 年度から平成 29 年度にかけて、下流域、中流域は普及率が上昇しているのに対し、上流域（旧大野見村、旧東津野村、構原町）の普及率は下降している。



### 項目の見直しについて

特になし。

### 平成 34 年度目標値 (案)

現状どおり 86.1%とする。

## ⑥環境に配慮した砂防・治山ダム数

### 項目内容

土砂供給が可能な砂防堰堤、環境に配慮した木製治山ダムの基数。

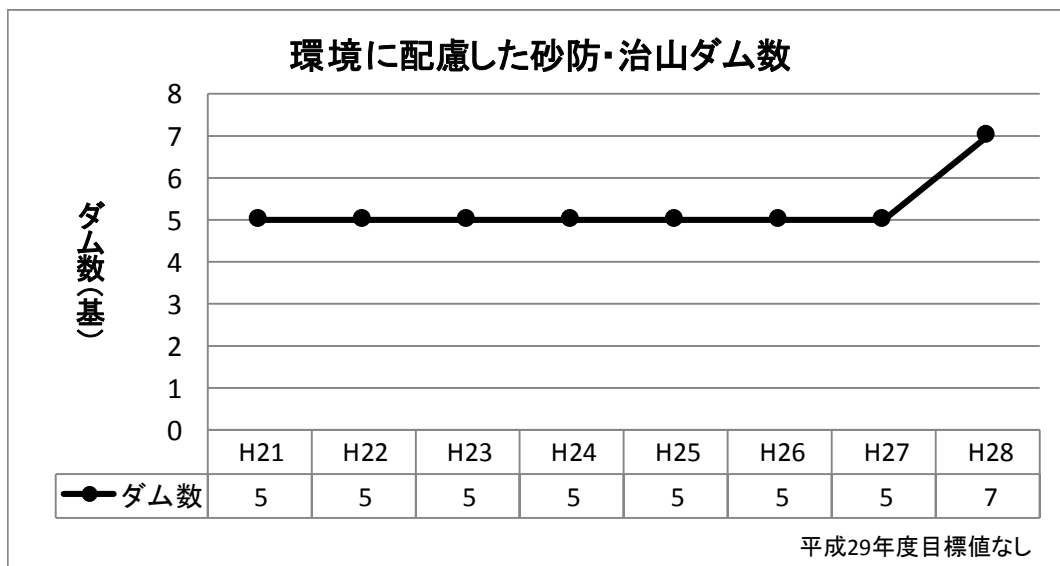
### 調査方法

防災砂防課（砂防堰堤）、治山林道課（木製治山ダム）に照会。

### 分析・考察

環境に配慮した砂防・治山ダム数は平成 15 年度に 1 基増加し、平成 27 年度まで 5 基を維持してきたが、平成 28 年度には 2 基増加し 7 基となった。

近年、国内外の動きとして、生態学的な配慮から下流への土砂供給が可能な透過型（スリット型）砂防堰堤を設置する事例が増えている。また、防災面でも「平成 30 年 7 月西日本豪雨災害」での教訓から、災害時に一気に大量の土砂が流出しないよう、平常時よりある程度の土砂を下流に流すことの出来る透過型砂防堰堤が見直されている。



### 項目の見直しについて

特になし。

### 平成 34 年度目標値（案）

本項目については、基数が多いことが望ましいものの、具体的な数値目標は設定しない。

## ⑦流域での学識者、有識者の活用件数

### 項目内容

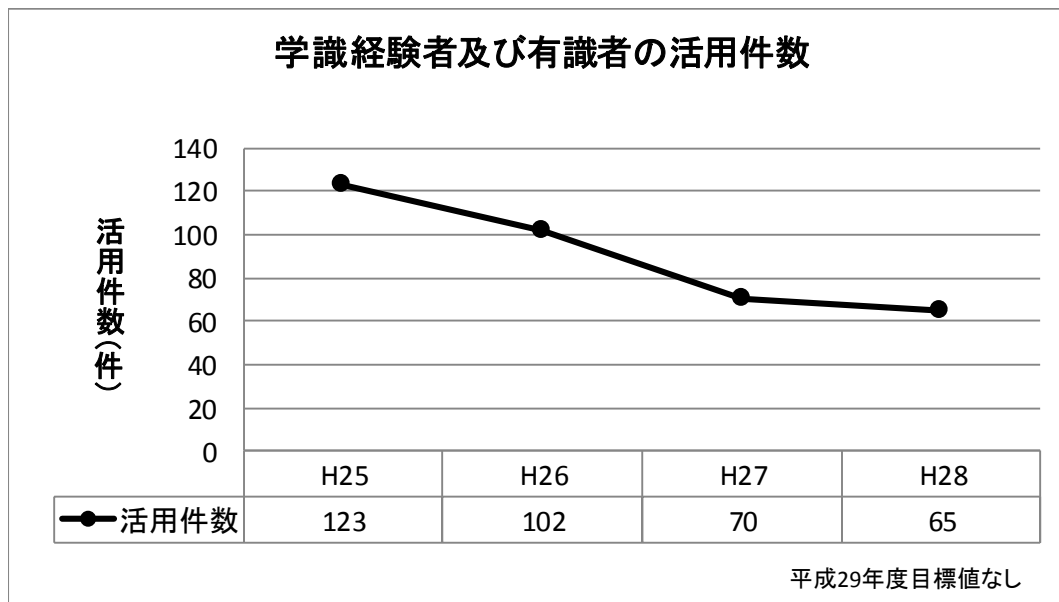
流域での学識者、有識者の活用件数

### 調査方法

流域市町等に照会

### 分析・考察

平成 25 年度末で高知県の文化環境アドバイザー制度が廃止となったことから、これに替えて流域内で四万十川の環境保全及び流域振興に関わっている学識者又は、有識者を把握している。活用件数は平成 25 年度以降減少傾向にあり、平成 28 年度は 65 件に留まった。流域住民に対し、単純に学識者・有識者の活用を呼びかけても効果が上がるとは考えにくいことから、公的なイベントや学習会等を中心に学識者・有識者の活用を継続していく必要がある。



### 項目の見直しについて

四万十川流域での学識経験者等の人数を把握していたが、学識経験者等の研究内容が変わること等、四万十川と関わらない年もあることから、実態の把握が困難であるため、項目を廃止する。

### 平成 34 年度目標値 (案)

項目の廃止

## ⑧四万十川（具同）における流況

### 項目内容

四万十川の具同における流況（豊水、平水、低水、渇水の各流量及び水量感）

### 調査方法

国土交通省水質水文データベース、現地調査（水量感）

### 提案理由

四万十川の将来像として「①水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること」と条例で定められているが、水量の指標がなかったことから、水量に関する項目を追加する。

### 平成 34 年度目標値（案）

目標数値を定めず数値の把握を行う。

（参考）流量集計イメージ

豊水流量：1年を通じて 95 日はこれを下らない流量

平水流量：1年を通じて 185 日はこれを下らない流量

低水流量：1年を通じて 275 日はこれを下らない流量

渇水流量：1年を通じて 355 日はこれを下らない流量

「渡川水系河川整備計画」国土交通省四国地方整備局・高知県、平成 27 年 2 月

（参考）水量感イメージ

「四万十川流域の環境評価報告書」（四万十川アドバイザー会議・高知県文化環境部清流・環境課、平成 20 年）









































































































































